

西洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史概論	古代ギリシアのポリス社会	2	杉本 陽奈子	3	前期金曜日2講時	ヨーロッパ史概論
西洋史概論	古代ローマの政治と社会	2	杉本 陽奈子	4	後期金曜日2講時	ヨーロッパ史概論
西洋史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	3	前期水曜日2講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	4	後期水曜日2講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	3	前期火曜日4講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	4	後期火曜日4講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	フランス語文献講読	2	矢口 啓朗	3	前期水曜日4講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	フランス語文献講読	2	矢口 啓朗	4	後期水曜日4講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史各論	ファシズムーナチズムースターリニズム	2	浅岡 善治	6	後期水曜日3講時	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	イングランド人の王ウィリアム1世とその世界	2	有光 秀行	5	前期月曜日4講時	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	アテナイ追放制度の展開とポリス社会の変容—祖国・身体・アイデンティティ	2	齊藤 貴弘	集中(5)	集中講義	ヨーロッパ史各論
西洋史演習	スターリニズムの歴史的再検討	2	浅岡 善治	5	前期木曜日2講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	スターリニズムの歴史的再検討	2	浅岡 善治	6	後期木曜日2講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世後期ヨーロッパ史の研究	2	阿部 ひろみ	5	前期水曜日2講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世後期ヨーロッパ史の研究	2	阿部 ひろみ	6	後期水曜日2講時	ヨーロッパ史演習

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：杉本 陽奈子

コード：LB35201, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史概論】

1. 授業題目：古代ギリシアのポリス社会

2. Course Title (授業題目) : Ancient Greek Polis

3. 授業の目的と概要：本講義では、古代ギリシア世界を理解するうえで重要な要素である「ポリス」について、その形成・発展・衰退（変質）を軸として学んでいく。具体的には、先史時代からローマ台頭の時代までを射程に入れつつ、特に古典期とヘレニズム時代のポリスに重点を置く。その際、各時代の社会的・文化的側面についても学ぶことで、当時のギリシア人たちの生活について知ると同時に、それらが時代の変化といかなる形でかかわっていたのかを理解していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course explains the ancient Greek history from the prehistoric age to the Hellenistic period with the aim of understanding the development and the decline of "polis" from the social and cultural perspectives.

5. 学修の到達目標：古代ギリシアは多数の「ポリス」によって構成される世界であった。しかし、こうしたポリス、さらには古代ギリシア世界について理解するためには、それがどのような時代の流れの中で形成・発展・衰退（変質）したものであったのかを知る必要がある。そこで、本講義では、古代ギリシアのポリスとはいかなるものであったのかについて、社会的・文化的側面から理解することを到達目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The main purpose of this course is to understand the development and the decline of the ancient Greek polis from the social and cultural perspectives.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 ギリシアの歴史概観
- 3 先史時代とエーゲ海文明
- 4 暗黒時代～前 8 世紀のルネサンス
- 5 前古典期における植民活動とポリスの展開
- 6 アテナイの歴史概観とポリスの構成員たち（市民）
- 7 ポリスの構成員たち（非市民）
- 8 政治と裁判
- 9 アテナイ社会と碑文
- 10 経済
- 11 戦争
- 12 宗教
- 13 ヘレニズム時代概観とマケドニア
- 14 ヘレニズム諸王朝
- 15 ヘレニズム時代のポリスとローマの台頭

8. 成績評価方法：

授業内の小レポート（20%）＋期末レポート（80%）（＝計 100%）

9. 教科書および参考書：

（参考書）服部良久ほか編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006 年。

その他、授業内で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：上に挙げた参考書を読み、古代ギリシア史に関する基礎的な知識を学んでおくこと。また、授業後には講義内容について復習し、授業内で紹介した参考文献に可能な限り目を通すこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：杉本 陽奈子

コード：LB45201, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史概論】

1. 授業題目：古代ローマの政治と社会

2. Course Title (授業題目) : Politics and Society in Ancient Rome

3. 授業の目的と概要：本講義では、古代ローマがどのように拡大し、広大な地域を支配し、「衰退」していったのかを学んでいく。その際、単に政治的な側面だけに注目するのではなく、社会的・経済的・文化的要素が果たしていた役割の大きさについて理解を深めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course explains how ancient Rome expanded, dominated, and "declined" from the political and socio-economic perspectives.

5. 学修の到達目標：都市国家として始まった古代ローマは、支配領域を拡大していく中で、伝統的な制度を土台としつつ新たな国家構造を形成していった。本講義では、その流れを政治だけでなく社会的・経済的・文化的側面から理解することを到達目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Ancient Rome expanded from the city-state to the empire, and its constitution was based on the traditional system which developed during the Republican period. The main purpose of this course is to understand the process by focusing on the political and socio-economic aspects.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 ローマの歴史概観
- 3 共和政期の国制
- 4 ローマの拡大と内乱の一世紀
- 5 元首政期の国制
- 6 属州統治
- 7 ローマ統治下のギリシア
- 8 専制君主政期の国制
- 9 東西分裂
- 10 軍事
- 11 宗教 (1) 伝統的宗教と外来の神々
- 12 宗教 (2) キリスト教
- 13 法
- 14 経済
- 15 古代末期

8. 成績評価方法：

授業内の小レポート (20%) + 期末レポート (80%) (=計 100%)

9. 教科書および参考書：

(参考書) 服部良久ほか編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006 年。

その他、授業内で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：上に挙げた参考書を読み、古代ローマ史に関する基礎的な知識を学んでおくこと。また、授業後には講義内容について復習し、授業内で紹介した参考文献に可能な限り目を通すこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33204, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read elementary German texts about the modern/contemporary European history with guiding some basic skills for historical research.

5. 学修の到達目標：専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To create the basic ability to read and comprehend German texts, and to learn some basic skills for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論(1)a
3. 試訳の検討と討論(1)b
4. 試訳の検討と討論(1)c
5. 試訳の検討と討論(1)d
6. 試訳の検討と討論(1)e
7. 小括(1)
8. 試訳の検討と討論(2)a
9. 試訳の検討と討論(2)b
10. 試訳の検討と討論(2)c
11. 試訳の検討と討論(2)d
12. 試訳の検討と討論(2)e
13. 小括(2)
14. 課題発表
15. 中間的総括

8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%

9. 教科書および参考書：

Ursula Büttner, Weimar – die überforderte Republik 1918–1933, Klett-Cotta : Stuttgart, 2010. 日本語の参考文献としては、木村靖二『兵士の革命ー1918 年ドイツ』東京大学出版会、1988 年。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43205, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：ドイツ語文献講読
2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in German
3. 授業の目的と概要：演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read elementary German texts about the modern/contemporary European history with guiding some basic skills for historical research.
5. 学修の到達目標：専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the basic ability to read and comprehend German texts, and to learn some basic skills for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論(1)a
 3. 試訳の検討と討論(1)b
 4. 試訳の検討と討論(1)c
 5. 試訳の検討と討論(1)d
 6. 試訳の検討と討論(1)e
 7. 小括(1)
 8. 試訳の検討と討論(2)a
 9. 試訳の検討と討論(2)b
 10. 試訳の検討と討論(2)c
 11. 試訳の検討と討論(2)d
 12. 試訳の検討と討論(2)e
 13. 小括(2)
 14. 課題発表
 15. 総括
8. 成績評価方法：

出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：

Ursula Büttner, Weimar – die überforderte Republik 1918–1933, Klett-Cotta: Stuttgart, 2010. 日本語の参考文献としては、木村靖二『兵士の革命—1918年ドイツ』東京大学出版会、1988年。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学修の到達目標：英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ブリテン諸島史を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1回あたり.15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB42403, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学修の到達目標：英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ブリテン諸島史を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1回あたり.15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：矢口 啓朗

コード：LB33406, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目： フランス語文献講読

2. Course Title (授業題目) : Introductory Reading in French

3. 授業の目的と概要： (1) ヨーロッパ史研究において重要な地位を占めるフランス語の基礎的読解能力を高める。
(2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治史についての基礎的知識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The aims of this course are

- (1) to develop basic reading skills of French, which occupies an important position in study of European history;
- (2) to increase knowledge of history of 19th European international relationships.

5. 学修の到達目標： (1) フランス語文献の基本的な読解能力を身につける。

- (2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治の特徴や構造を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : At the end of this course, participants are expected

- (1) to get basic skills about reading of French books;
- (2) to understand features and construct of 19th European international relationships.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

19 世紀ヨーロッパ国際政治史について、フランス語で書かれた文献を序章から読み進めていく。指定したテキストの範囲について、あらかじめ和訳を作ってから授業に臨むこと。また、テキスト読解中に出てきた歴史的概念や専門用語についても調べておくこと。授業では基本的には一文ずつ、指名された学生が訳文を発表した上で、討論を通じて訳文を検討し、より正確な訳文を作成していく。学期末にはそれまでに訳した文章を各自でまとめ直し提出してもらう。また学期末には、ヨーロッパ史の理解を各自で深めていくことを目的として、レポートを課題として提示する予定である。そこでアカデミックライティングの技法についても学んでゆく。

第 1 回：授業ガイダンス、授業の進め方やテキストの説明。

第 2-15 回：試訳の検討。第 11 回でレポートの課題を提示する。

8. 成績評価方法：

- (1) 出席及び授業態度 (30%)
- (2) 仏文和訳を通じた正確な読解力の修得度 (40%)
- (3) 期末レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

授業には必ず文法書と辞書（電子辞書、スマートフォン、タブレット端末も可）を用意してくること。テキストは Jacques-Alain de Sédouy (2009), *Le concert européen : aux origines de l'Europe (1814-1914)*, Paris: Fayard. を予定している。テキストについては、初回にそのコピーを配布する。参考書は適宜授業内で指示する。

10. 授業時間外学習： 予習として、必ず指定されたテキストの箇所を読みこんだ上で、日本語訳を作成しておくこと。また復習として、テキストを読み返しつつ、日本語訳の修正版を作成すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー・連絡方法等については、第 1 回のガイダンスで説明する。

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：矢口 啓朗

コード：LB43405, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目： フランス語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in French

3. 授業の目的と概要：(1) ヨーロッパ史研究において重要な地位を占めるフランス語の基礎的読解能力を高める。
(2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治史についての基礎的知識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aims of this course are

- (1) to develop basic reading skills of French, which occupies an important position in study of European history;
- (2) to increase knowledge of history of 19th European international relationships.

5. 学修の到達目標：(1) フランス語文献の基本的な読解能力を身につける。

- (2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治の特徴や構造を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of this course, participants are expected

- (1) to get basic skills about reading of French books;
- (2) to understand features and construct of 19th European international relationships.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に引き続き、19 世紀ヨーロッパ国際政治史について、フランス語で書かれた文献を序章から読み進めていく。指定したテキストの範囲について、あらかじめ和訳を作ってから授業に臨むこと。また、テキスト読解中に出てきた歴史的概念や専門用語についても調べておくこと。授業では基本的には一文ずつ、指名された学生が訳文を発表した上で、討論を通じて訳文を検討し、より正確な訳文を作成していく。学期末にはそれまでに訳した文章を各自でまとめ直し提出してもらう。また学期末には、ヨーロッパ史の理解を各自で深めていくことを目的として、レポートを課題として提示する予定である。そこでアカデミックライティングの技法についても学んでゆく。

第 1 回：授業ガイダンス、授業の進め方やテキストの説明。

第 2-15 回：試訳の検討。第 11 回でレポートの課題を提示する。

なお本授業はオンライン実施を基本とする。

8. 成績評価方法：

- (1) 出席及び授業態度 (30%)
- (2) 仏文和訳を通じた正確な読解力の修得度 (40%)
- (3) 期末レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

授業には必ず文法書と辞書（電子辞書、スマートフォン、タブレット端末も可）を用意してくること。テキストは Jacques-Alain de Sédouy (2009), *Le concert européen : aux origines de l'Europe (1814-1914)*, Paris: Fayard. を予定している。参考書は適宜授業内で指示する。

10. 授業時間外学習： 予習として、必ず指定されたテキストの箇所を読みこんだ上で、日本語訳を作成しておくこと。また復習として、テキストを読み返しつつ、日本語訳の修正版を作成すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー・連絡方法等については、第 1 回のガイダンスで説明する。

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB63302, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：ファシズムーナチズムースターリニズム
2. Course Title (授業題目)：Fascism-Nazism-Stalinism
3. 授業の目的と概要： ファシズム、ナチズム、スターリニズムの諸事象を通じて、20世紀ヨーロッパ史の展開過程を再検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to reexamine the processes of European history in the 20th century through the Fascist, Nazist and Stalinist phenomena.
5. 学修の到達目標：・ファシズム、ナチズム、スターリニズムの観点から、ヨーロッパ近現代史の展開過程を把握する。
・ヨーロッパ近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp the outline of the modern/contemporary European history from the viewpoint of Fascism, Nazism and Stalinism.
・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 「ファシズム論」の現在
 2. ムッソリーニとファシズム(1)
 3. ムッソリーニとファシズム(2)
 4. ムッソリーニとファシズム(3)
 5. ヒトラーとナチズム(1)
 6. ヒトラーとナチズム(2)
 7. ヒトラーとナチズム(3)
 8. スターリンとスターリニズム(1)
 9. スターリンとスターリニズム(2)
 10. スターリンとスターリニズム(3)
 11. ファシズムとスターリニズムの「世界性」
 12. ファシストとナチの戦争
 13. スターリニストの戦争
 14. 第二次世界大戦とその後
 15. 総括と展望
8. 成績評価方法：

期末試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用しない。さしあたり基本文献として、ファシズム研究会編『戦士の革命・生産者の国家』太陽出版、1985年；U・ヘルベルト『第三帝国——ある独裁の歴史』小野寺拓也訳、角川新書、2021年；G・ギル『スターリニズム』内田健二訳、岩波書店、2004年、を挙げておく。その他の個別的文献については、講義の進行に合わせて随時紹介していく。
10. 授業時間外学習： 「各論」ながら講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
質問等は随時。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB51401, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：イングランド人の王ウィリアム 1 世とその世界
2. Course Title (授業題目)：William I , king of the English, and his world
3. 授業の目的と概要：この授業は、イングランド人の王ウィリアム 1 世（ノルマン人の公ギヨーム 2 世）の生涯をたどりながら、ブリテン諸島と大陸ヨーロッパの関係の変化など、11 世紀西北ヨーロッパ世界を理解することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to understand the northwestern European society in the eleventh century through the life of William the Conqueror, king of the English and duke of the Normans.
5. 学修の到達目標：11 世紀西北ヨーロッパ世界におこった大きな変化を理解できるようになることと、歴史の中の人物について理解できるようになることを、目標とします。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are understanding .great changes of the northwestern European society in the eleventh century and also understanding people in their historical context.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 誕生から 1040 年代前半まで (1)
 3. 同上 (2)
 4. 同上 (3)
 5. 1066 年まで (1)
 6. 同上 (2)
 7. 1066 年 (1)
 8. 同上 (2)
 9. 同上 (3)
 10. 1070 年代前半まで (1)
 11. 同上 (2)
 12. 同上 (3)
 13. 亡くなるまで (1)
 14. 同上 (2)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) とレポート (50 パーセント)。
9. 教科書および参考書：

教室で指示します。
10. 授業時間外学習：教室で指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：5 単位数：2

担当教員：齊藤 貴弘

コード：LB98812, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：アテナイ追放制度の展開とポリス社会の変容—祖国・身体・アイデンティティ
2. Course Title (授業題目)：Understanding “exile” in the Ancient Greek World: A case of Athens
3. 授業の目的と概要：時として死後の埋葬禁止までも含む古代ギリシア（アテナイ）の「追放」概念は、市民共同体成員の死生観と祖国のアイデンティティと深く切り結ぶ。その「追放」制度（追放刑）の運用実態を歴史的展開に位置づけることで、ポリスの本質と都市国家アテナイの社会変容を捉える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to learn the variety of “exile” and understand the essential character of polis as a historical form of community through the institution of “exile” in the Athenian society.
5. 学修の到達目標：・死生観が「追放」制度と結びつき社会的規制力を持っていたことを説明できるようになる。
・史料を歴史的コンテクストから、分析し、読解することができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main objective of the lectures is to learn how institutions or concepts of “exile” connect with a view of life and death, and work in a society. Students also learn the way of reading historical documents in the historical context.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
※各回の構成や順序は、一部変更する場合があります。
 - 1) イントロダクション ポリスとは
 - 2) 問題の所在—古代ギリシアの「追放」の特殊性と「永久追放」
 - 3) ギリシア人の死生観と葬制
 - 4) アテナイの裁判制度と「追放」の多義性
 - 5) 有期追放刑と陶片追放
 - 6) ペルシア戦争の経験—「土地生え抜き」とアッティカの「身体化」
 - 7) アテナイ「帝国」支配—「エゴ」の膨張
 - 8) 「追放」の実態—事例分析
 - 9) アルギヌサイ海戦將軍弾劾裁判（1）バラトロンとは何か
 - 10) アルギヌサイ海戦將軍弾劾裁判（2）裁判の行方と死者のカタルシス
 - 11) ソクラテス裁判（1）
 - 12) ソクラテス裁判（2）
 - 13) 追放観の変容—前4世紀の諸相
 - 14) まとめ
 - 15) 試験と振り返り
8. 成績評価方法：
各回のコメントシート（30%）と第15回の授業時間中に理解度を確認する試験（70%）。
9. 教科書および参考書：
教科書：特に指定しない
参考書：
R. ガーランド（高木正朗・永都軍三・田中誠訳）『古代ギリシア人と死』晃洋書房，2008.
高島純夫・齋藤貴弘・竹内一博『古代ギリシアの暮らし』河出書房新社，2018.
10. 授業時間外学習：古代ギリシア史の概略を概説書などで踏まえておくこと。また、各回の講義の内容をそれまでの講義内容や、ギリシア史の展開と関連付けて理解するよう努める。分からない単語などは、参考文献を用いて調べること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB54210, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目： スターリニズムの歴史的再検討
2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: Stalinism Revisited
3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.
5. 学修の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論 (1)a
 3. 試訳の検討と討論 (1)b
 4. 試訳の検討と討論 (1)c
 5. 試訳の検討と討論 (1)d
 6. 試訳の検討と討論 (1)e
 7. 小括 (1)
 8. 試訳の検討と討論 (2)a
 9. 試訳の検討と討論 (2)b
 10. 試訳の検討と討論 (2)c
 11. 試訳の検討と討論 (2)d
 12. 試訳の検討と討論 (2)e
 13. 小括 (2)
 14. 課題発表
 15. 中間的総括
8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：

Mark Edele, Debates on Stalinism, Manchester University Press, 2020; G・ギル『スターリニズム』内田健二訳、岩波書店、2004年。その他、演習の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB64206, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目： スターリニズムの歴史的再検討
2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: Stalinism Revisited
3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.
5. 学修の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論 (1)a
 3. 試訳の検討と討論 (1)b
 4. 試訳の検討と討論 (1)c
 5. 試訳の検討と討論 (1)d
 6. 試訳の検討と討論 (1)e
 7. 小括 (1)
 8. 試訳の検討と討論 (2)a
 9. 試訳の検討と討論 (2)b
 10. 試訳の検討と討論 (2)c
 11. 試訳の検討と討論 (2)d
 12. 試訳の検討と討論 (2)e
 13. 小括 (2)
 14. 課題発表
 15. 総括
8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：

Mark Edele, Debates on Stalinism, Manchester University Press, 2020; G・ギル『スターリニズム』内田健二訳、岩波書店、2004年。その他、演習の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LB53207, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：中世後期ヨーロッパ史の研究

2. Course Title (授業題目)：Study in the Late Medieval European History

3. 授業の目的と概要：ドイツ語学術文献の訳読を通して、ドイツ語能力を高めると同時に、学術文献の読解力をつける。さらに文献読解に必要な事典等についての知識を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through reading academic theses in German, students will improve their German and learn the structure of the academic text. In addition, information about important handbooks and encyclopedias will be provided.

5. 学修の到達目標：ヨーロッパ史で卒業論文を作成する上で必要となる語学力・読解力およびその他の学術的知識を獲得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop their language ability and reading skills as preparation for writing the bachelor thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世後期ヨーロッパに関するドイツ語の学術論文を参加者で順番に訳読する。参加者は担当箇所を授業前に作成し、メールで提出する。授業ではその訳文を検討する。そのため、参加者全員が授業前にその日に読み進める箇所を読解しておくことが求められる。

学期の中間と最後には、ドイツ語テキストを日本語に訳出する課題が出される。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) と中間・期末課題 (50 パーセント)

9. 教科書および参考書：

授業には独和辞典を持参。その他事典等については授業中に適宜指示する。読解する文献は初回に配布する。

10. 授業時間外学習：参加者全員が担当箇所以外の部分も含めて読解し、予復習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LB63207, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：中世後期ヨーロッパ史の研究

2. Course Title (授業題目)：Study in the Late Medieval European History

3. 授業の目的と概要：ドイツ語学術文献の訳読を通して、ドイツ語能力を高めると同時に、学術文献の読解力をつける。さらに文献読解に必要な事典等についての知識を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through reading academic theses in German, students will improve their German and learn the structure of the academic text. In addition, information about important handbooks and encyclopedias will be provided.

5. 学修の到達目標：ヨーロッパ史で卒業論文を作成する上で必要となる語学力・読解力およびその他の学術的知識を獲得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop their language ability and reading skills as preparation for writing the bachelor thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世後期ヨーロッパに関するドイツ語の学術論文を参加者で順番に訳読する。参加者は担当箇所を授業前に作成し、メールで提出する。授業ではその訳文を検討する。そのため、参加者全員が授業前にその日に読み進める箇所を読解しておくことが求められる。

学期の中間と最後には、ドイツ語テキストを日本語に訳出する課題が出される。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) と中間・期末課題 (50 パーセント)

9. 教科書および参考書：

授業には独和辞典を持参。その他事典等については授業中に適宜指示する。読解する文献は初回に配布する。

10. 授業時間外学習：参加者全員が担当箇所以外の部分も含めて読解し、予復習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし